

## ◎ 連合会だより

例年、1月から3月は、仕事拡大を中心に労協運動を強める1・2・3運動の期間です。昨年、1・2・3運動の記憶がどうもはっきりしません。それもそのはず、はからずも入院中。今年は、元気に頑張っています。

第8回目の今年、高齢者協同組合のひろがり、1・2・3運動をひっぱりあげているのが最大の特徴です。はじめて1・2・3運動にとりくんだ北海道労協。同じく伊丹労協。ともに、昨年、高齢者協同組合を立ち上げ、あらためて注目をうけ、それが1・2・3運動への大きなバネになっています。

なによりも決定的なのが、東京と愛知です。公団、集合住宅関連の仕事おこし、管理人養成講座、葬送研究会への圧倒的な人の結集と講座への申し込みの殺到、そして、「高齢者協同組合のテレビを見ました。あれお宅でしょう」という声の仕事受注先などからいくつも聞こえてくる状況。人生

と生活の両方とに東京では出会っています。愛知では350人をこす組合員が動き、200件近くにあたり、仕事の拡大がその中からうまれてきています。そして、長野では、弁当の宅配が高齢協運動への共感から2倍に広がり、病院の給食や売店の仕事もふえてきました。

それは農業の関連にも飛び火し、福岡の筑豊で農協の資材センターの管理などの仕事をはじめれば、北九州では、休耕田に柏屋の事業団が大豆を4町歩植えることになり、長野では農協の施設の清掃がはじまろうとしています。そうこうしている内に、大分県の下郷農協が連合会との連携を深めたい旨のたよりがC&Cの飯島さんから入ることが連続的に起こってきています。

生活との出会い、協同集会からの流れが足についてきました。

鍛谷 宗孝（労協連合会・専務理事）

## ◎ センター事業団だより

1・2・3運動も終盤の3月に突入している。2月には、センター事業団としては全国初の公立医療機関の仕事となる、秋田県総合リハビリテーション・精神医療センターの清掃業務受注を始め、東葛市民生協の積み込み業務・品川区自転車撤去業務など、少しずつ事業拡大が進んできた。また、3月に入って、埼玉北部・豆腐工房の弁当屋、沖縄高齢協の配食サービス、東京高齢協での様々な仕事おこしを目指した取り組みなど、かつてなく事業の広がりが意欲的になっており、「仕事おこし」の協同組合としての内実を高める段階に来ているように感じる。その一方で、組合員自身の行動や事業拡大への行動は、必ずしも大爆発に至っていない。もちろん、上記の拡大には多くの組合員が関わり、新しい事業が開始されてきているのだが、1・2・3運動が単なる仕事を増やす「結果」を求めるのではなく、組合員自身が関わることによって、事業・経営の主体者としての意識を育てようという、「プロセス」をより重視した運動な

のだから、いかにこの運動を通じて、人の変化・発達が実現できるかが、重要な尺度である。協同集会や高齢協づくりの運動においても、この事が今もって大きく進んでいるとは言い切れない。確かに自覚的な外の人々となつながら、その結果として新しい組織づくり・仕事おこしが生まれ、運動全体としては進んでいると言えるが、この事を通じて、元々の構成員の成長や発達が蔑ろになることは、組織の力としては大きな弱点と見て、対策を講じる必要があるように思う。

センター事業団が労働者協同組合としての内実を高める上で、組織が教育的な機能をどのように持つのか、更にいえば、センター事業団は人が育ち発達する組織になりうるのかが、来期以降の中期計画後半期の大きな柱となる。労協の中で、人生の中での人の変遷をどうプロデュース出来るのか、その為に必要なことは何か。答えはどうやら人の心と認識の共有にありそうだ。

古村 伸宏（労協センター事業団・事務局長）